

文化財庭園保存技術者協議会 会報

2016.12 第27号

編集・発行：文化財庭園保存技術者協議会（代表：徳村盛市）

〒600-8361 京都市下京区大宮通花屋町上ル NPOみどりのまちづくり研究所内

TEL：075-341-2600 FAX：075-361-0961

評議会連絡所：〒602-8261 京都市上京区多門町440-6 株式会社環境事業計画研究所内

TEL：075-431-0055 FAX：075-431-0006

東京連絡所：〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-3福田ビル3F 文化財庭園保存技術研究センター

TEL：03-3202-5233 FAX：03-3202-5394

平成27年度実技技能研修会の報告

平成 28 年 2 月 26 日(金)～28 日(日)愛媛県新居浜市内の重要文化財旧広瀬家住宅・愛媛県指定名勝広瀬公園において、教養研修ならびに実技技能研修を開催いたしました。今回は、愛媛県教育委員会や広瀬歴史記念館の皆さまのご尽力のお陰で、多くの愛媛県内の造園業の方々にご参加頂き、当協議会員と合わせて 70 名近い参加者となりました。

1 日目の午後より広瀬公園に隣接する高齢者生きがい創造学園にて開会し、文化庁の平澤毅文化財調査官、愛媛県教育委員会の西村暢人教育主任、広瀬歴史記念館の久葉裕可館長よりご挨拶を頂きました。続いて、教養研修として「広瀬邸が公園となるまで」と題して、住友史料館副館長で新居浜市広瀬歴史記念館特別顧問の末岡照啓氏より、住友グループの基礎を確立した広瀬幸平によって創生された別子銅山をはじめとした近代産業について、広瀬の旧邸及び庭園が公園になる



教養研修の様子

までの歴史を年代ごとにお話し頂きました。次に、京都工芸繊維大学の矢ヶ崎善太郎准教授、尼崎博正評議会会員より旧広瀬邸の建築と庭園についてご講義頂きました。

その後、実地研修に移り、久葉館長にご解説頂きつつ旧広瀬邸及び広瀬公園を見学しました。最後に、教養・実地技能研修の内容と現況を踏まえて、評議会員の監修のもと、正会員を中心に実技技能研修の方向性や留意点の整理、研修計画等を検討し、全体で研修方針のまとめを行い、翌日の実技技能研修に備えました。なお、広瀬公園においては、愛媛県の助成を受けて庭園整備事業が行われ、(株)植彌加藤造園の施工により支障木の対策工事等が実施されています。今回の研修においては、整備事業との兼ね合いを検討しつつ研修内容を検討し、事業内では予算の関係上行うことが出来なかった高木の剪定や伐採等を実施することとしました。

1 日目の研修を終え、夜には情報交換会を行いました。会の中盤には、研修会にご尽力いただいた愛媛県教育委員会や新居浜市歴史記念館をはじめ、地元業者の方々、さらに今回初めて参加する新入会員の皆さまにご挨拶頂き、大変楽しい時間のなか、交流を深めることができました。

翌日からは、広瀬公園の内庭と南庭において実技技能研修を開始しました。内庭は、旧広瀬邸の母屋の本座敷及び新座敷に面する庭園で、中島のある園池を中心に平場が広がり、背後には築山が築かれ起伏のある地形となっています。庭園内には茶室「指月庵」、東屋「潺潺亭」

が建ち、石燈籠や銅塔等の構造物が点在しています。また、園池の周辺にはツバキ等の低木、中島にはマツが植栽され、築山にはスギ等の高木があり、座敷や平場から望むときの景色に背景として取り込まれています。南庭は、内庭と石垣による段差により区別され、1.5m程高い位置に築かれた庭園です。比較的平坦で、仏堂「靖献堂」、煉瓦書庫、広脇神社が建ちます。植栽は、スギやヒノキをはじめ、ダイオオショウやメタセコイヤ等の高木が植栽されています。



実技技能研修の様子（内庭/中島低木の剪定）

今回の研修では、内庭において、中島のマツの整姿剪定やサツキの切り戻し剪定、コケ貼りを行い、茶室「指月庵」周囲の中高木の剪定を行いました。また、視点場となる内庭の座敷及び平場からは、南庭の高木が背景となって見えているため、南庭に密生して高木化したスギやヒノキは、庭園景観に圧迫感を与える状態となっていました。そのため、内庭と南庭を何度も繰り返し行き来して確認しながら大枝おろしや透かし剪定を行い、本来の庭園景観を取り戻すよう作業を行いました。南庭に密生した高木は、下木や地被類の成長にも影響を与える要因となっていたため、内庭の景観に影響を与えない実生木の太枝おろしや伐採を実施しました。



実技技能研修の様子（南庭/高木の太枝おろし）

最終日の午後には作業を終え、片付けの後全体で現地を回り、作業を行った担当者により研修内容の説明が行われ、続いて評議会員、平澤文化財調査官より講評を頂きました。平澤調査官からは、今回の研修で多くの現地の方とともに研修を行い、技術の交流ができたことはとても意味のあることであったこと、また、当協議会の活動は、文化庁内でも広く知られてきており、評価をいただいていること等をお話し頂き、今後の活動に改めて気を引き締める機会となりました。

平成 28 年度新進芸術家育成事業ならびに第 13 回文化財庭園フォーラムが福岡県添田町にて開催されました

平成 28 年 6 月、文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の受託により、文化財庭園保存管理技術全般の長期研修を行いました。

6 月 18 日(土)～24 日(金)には福岡県添田町の史跡英彦山内にある名勝旧亀石坊庭園において実技技能研修を行い、25 日(土)26 日(金)には文化財庭園フォーラムを開催し、広く一般の県民を対象に、庭師の作業を解説を交えながら公開する見学会や、文化財庭園に関わる学識経験者等による講義やパネルディスカッションを行うシンポジウムを開催しました。

1 日目は、福岡県重要文化財 財蔵坊において開会式を行いました。徳村盛市代表、文化庁



旧亀石坊庭園（全景）

舎に造られた庭園で、山腹の斜面を利用して庭園が造られています。斜面には複数の景石を据え、山裾には滝石組と園池を設けています。坊舎跡とされる平場から、園池及び斜面に据えられた景石や滝石組を望むと、借景に英彦山の上宮や周辺の山々が取り込まれる構成になっています。現在は、斜面から流下する土砂や落葉が堆積し、地割が不明瞭になっており、巨木化した高木や繁茂した低木により石組や地割が隠れた状態となっていました。

2 日目からの実技技能研修では、庭園本来の魅力を取り戻すため、地割管理技術・石組管理技術・水処理管理技術・植栽管理技術の研修を実施しました。また、護岸石組の据え直し等、掘削をともなう修理が必要な場合には、着手前に確認調査を行い、傷みの有無と要因を検証した上で修理方針の検討を行いました。

研修にあたっては、まず、経年で堆積した土砂や落葉等を掃除し、地割や水系を明確にすることから始めました。地形や水路の状態を明らかにしたうえで、地割管理技術の研修として、堆積物で埋まった水路の復旧や、表土が流出した護岸の修理を行いました。堆積物や護岸際で繁茂していた低木類を除去したところ、護岸石組に傾倒しているとみられる箇所があったため、トレンチを掘削し発掘調査を行いました。調査の結果、石の傾倒は認められず修理は行わない方針となりました。発掘調査は別の護岸でも行いました。護岸際に改修痕が考えれたことや、園池底より地山とみられる岩盤が検出されたことから、護岸や園池の構造を明らかにする目的でトレンチを掘削しました。岩盤には立石が据えられており、掘方が認められなかったことから岩盤が人口に造成されたものではなく、自然の状態である可能性も考えられましたが、発掘調査の結果からは、園池や護岸の構造を明らかにすることはできませんでした。

石組管理技術の研修については、水路の一部に転落した護岸石を確認したため、石の据え直し及び裏込めの修理を行いました。

植栽管理技術の研修については、斜面の巨木化して庭園景観に圧迫感を与えていた高木の枝おろしや、密生する実生木の伐採を行いました。また、園池護岸周辺に植栽され、成長して

文化財部記念物課の青木達司文化財調査官のご挨拶で開会し、続いて教養研修として、添田町役場まちづくり課の岩本教之副課長に英彦山の概観について、福岡県教育庁の正田実知彦主任技師に旧亀石坊庭園を含めた英彦山内の庭園についてご講義頂きました。その後、実地技能研修として、重要文化財英彦山神宮奉幣殿、旧座主院庭園、政所庭園跡を見学し、最後に実技技能研修場所である旧亀石坊庭園で、評議員・正会員を中心として修理内容方針の検討を行いました。旧亀石坊庭園は、英彦山修験道の坊



教養研修の様子（福岡県重要文化財 財蔵坊）

石組を覆っていた低木の切り戻し剪定を行いました。水処理技術の研修については、山裾に設けられた滝石組に給水する水路に水が入らなくなっていたため、取水口の調整を行いました。また、庭園の範囲外においても、庭園へアプローチする園路の排水対策工事や大国神社の雨落ち復旧を行いました。

6 日間の研修の結果、山腹を利用した地形の起伏や隠れていた石組が顕在化し、滝石組からも再び園池へ給水されるようになりました。また、透かし剪定を行った高木の枝の間からは、空が望めるようになり、背後の上宮が意識できるようになりました。

6 月 25 日(土)からは第 13 回文化財庭園フォーラムを開催し、25 日(土)は実技見学会、26 日(日)には添田町のオークホールにて文化財庭園シンポジウムを開催しました。

実技見学会では、園池際や平場に植栽されていたサツキ等の低木の剪定を行いました。大きく成長して護岸石組や景石を隠していた低木を切り下げ透かし剪定を行うと、石組や景石が見えるようになりました。見学会に来てくださった皆さまには、「旧亀石坊庭園の石組の素晴らしさに気づけて良かった」「庭園のお手入れの意味がわかった」と嬉しい言葉を頂きました。シンポジウムでは、文化庁の平澤毅文化財調査官、福岡県教育庁の正田実智彦主任技師よりご講演頂き、文化財庭園保存技術者協議会よりは研修報告を行いました。その後、添田町役の岩本教之副課長、京都造形大学教授の尼崎博正評議員、元東北芸術工科大学教授の田中哲雄評議員、名城大学教授の丸山宏評議員にご登壇頂き、パネルディスカッションを行い、最後にコーディネーターである文化財指定庭園保護協議会亀山章会長にまとめて頂きました。

今回の研修は全日程が雨天となり、研修半ばには、福岡県に 10 年に 1 度といわれる大雨が降りました。作業を中断する日も何日ありましたが、連日雨のなか研修を行いました。長期研修だったこともあり、参加者の皆さまは大変お疲れになったことと思います。ですが、宿で



実技技能研修の様子（地割修理）



実技技能研修の様子（地割修理）



実技技能研修の様子（石組修理）



実技技能研修の様子（植栽修理）



見学会の様子

は温泉で体を休め、毎晩青年部の開店するラウンジで深夜まで楽しい時間を共有することができ、とても思い出に残る研修となりました。

最後になりましたが、福岡県庁や添田町役場、所有者をはじめ添田町の皆さまには、多くのご理解とご協力を頂き、無事に研修を終えることができました。この場をお借りし、厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

平成 28 年度総会ならびに研修会の報告

平成 28 年 7 月 22 日（金）～24 日（日）総会ならびに実技技能研修を開催しました。総会は、KKR ホテル名古屋にて徳村盛市代表の挨拶からはじまり、名古屋城総合事務所所長、文化庁文化庁の平澤毅文化財調査官にご挨拶を頂き開会しました。続いて総会資料に基づき議事が進められ、先に平成 27 年度の事業報告・決算報告・監査報告が行われ、平成 28 年度の事業計画ならびに予算が報告されました。

その後、教養研修・実地技能研修を行いました。まず、平澤調査官より基調講演として「名勝の保護」と題してご講演頂き、続いて「特別史跡名古屋城及び名勝名古屋城二之丸庭園について」と題して名古屋城総合事務所の市澤泰峰学芸員にご講演頂きました。その後、名古屋城内での実地技能研修に移りました。発掘調査については市澤氏、名古屋城本丸御殿については名古屋城総合事務所の岩本室長・小幡前室長、名勝名古屋城二之丸庭園については名城大学教授の丸山宏評議員・名古屋城総合事務所の今井氏・佐竹康太郎準会員（株）三五郎園）に現地説明を頂き現地を見学しました。

翌日より、天守閣北側にある御深井丸に位置する御深井丸内茶席露地において、植栽管理技術の実技技能研修を行いました。まず、名古屋城総合事務所より現地説明を頂きつつ全員で現地を確認し、評議員会の監修を得て検討した研修計画が発表されました。御深井丸内には、“猿面望嶽茶席”“書院”“又隠茶席”“織部堂”の建造物があり、これらの露地の樹木が成長して繁茂し、実生木等が密生した状態になっていました。そのため、建造物にかかる枝の除去や実生木の伐採、茶席露地においては、空間性を考慮し、草本類の整理や中高木の整姿剪定を実施しました。その結果、密生していた高木類の枝や実生木を整理し、暗く鬱蒼としていた空間に、広がり生まれ、また、又隠茶席の月見台からは天守閣が望めるようになり、周囲への眺望も開けました。

24 日（日）は、午前中までの作業とし、午後よりは片付けの後、総括を行いました。全員で現地を確認し、作業担当者より内容の説明があり、最後に評議員会より講評を頂きました。今回の総会をもって新たに評議員会に選出された、京都工芸繊維大学の矢ヶ崎善太郎准教授からは、樹木を整理することにより建造物が見えるようになり、そのことにより、庭園だけでなく建造物と庭園の関わりが見えてくる。一体として沿革や構成を考えることの重要性をお話し頂きました。



実技技能の様子（御深井丸内茶席露地）



実技技能の様子（御深井丸内茶席露地）

庭園学講座 23 開催される

京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターが主催する庭園学講座 23「日本庭園と理想郷」が、2016 年 8 月 26 日(金)から 8 月 28 日(日)の 3 日間で開催されました。本協議会では、これを特別教養研修と位置付け会員に開講のご案内をいたしましたところ、今回も多くの方に参加頂きました。

1日目は、京都造形芸術大学を会場にはじまり、本協議会の事務局長補佐でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの仲隆裕所長より開校の挨拶と、今回のテーマである「日本庭園と理想郷」についてお話し頂きました。続いて、京都大学大学院の山口敬太助教より「文人の住まいと隠遁の風景」と題して、近世初期に隠遁的性格をもって造営された文人の住まいと、そこでの生活や風物、風景等についてご講義を頂きました。座学の最後には、京都造形芸術大学専任講師 日本庭園・歴史遺産研究センターの坪井剛研究員により「信仰と理想郷ー本阿弥一族の法華信仰と鷹峯「光悦町」ー」と題して、日蓮宗信者にとっての信仰的理想郷であったと言われていた光悦町について、本阿弥一族の信仰との関係をご講義頂きました。午後は、玄琢山荘に会場を移し、当協議会評議員会でもある京都工芸繊維大学の矢ヶ崎善太郎准教授より「土橋嘉兵衛邸「玄琢山荘」の建築」、京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの武藤夕佳里研究員より「「玄琢山荘」および「玄琢庵」の庭園」と題したご講義を頂いた後、現地を見学をしました。

2日目は、まず屋内の会場にて、仲隆裕所長による「石清水八幡宮と松花堂庭園」と題してのご講義を受け、石清水八幡宮における滝本坊及び泉坊の茶室と庭園や、松花堂が移築されて営まれた庭園についてのお話を頂きました。

その後、会場を移し現地を見学しました。見学にあたっては、まず、石清水八幡宮の歴史などについて石清水八幡宮の方にご説明頂き、その後、本協議会評議員会でもある京都造形芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センターの尼崎博正名誉所長より石清水八幡宮の石造物について、京都造形芸術大学非常勤講師 日本庭園・歴史遺産研究センターの町田香研究員より寛永文化と松花堂昭乗との関係について、仲隆裕所長より“史跡松花堂およびその跡”ならびに“名勝松花堂及び書院庭園”についてご解説頂きつつ現地を見学しました。

3日目は、河井寛次郎記念館での見学からはじまり、続いて六兵衛窯（株式会社キヨロク）の展示室、茶わん坂の展示室、小川文齋邸を見学しました。河井寛次郎記念館ならびに六兵衛窯では、武藤夕佳里研究員より沿革や庭園について、石造物については尼崎博正名誉所長にご解説を頂きました。小川文齋邸では、作庭に携わられた尼崎博正名誉所長より解説を頂きつつ見

学しました。午後は会場を移し、「日本庭園と理想郷ー理想郷の創造と継承」と題してのシンポジウムが行われました。仲隆裕所長による趣旨説明の後、京都造形芸術大学の中ノ堂一信客員教授による「京都東山地区五条坂地区における登り窯の変遷」、尼崎博正名誉所長による「石の造形」への視点」と題してのご講演があり、その後、パネラーの方々と交えたディスカッションが行われました。全ての日程を終えた後、最後に尼崎博正名誉所長より修了証書の授与と閉講のご挨拶を頂き、3日間の講座は終了いたしました。

**文化庁主催シンポジウム『選定保存技術公開事業 文化庁日本の技体験フェア 2016
～ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技～』開催される**

2016年9月12日（土）13日（日）群馬県前橋市のヤマダグリーンドーム前橋において、文化庁主催シンポジウム『選定保存技術公開事業 文化庁日本の技体験フェア 2016～ふれてみよう！文化財を守り続けてきた匠の技～』が開催されました。当日は選定保存技術保存団体が一同に会し、各団体の後継者育成の取り組みや保存伝承活動についての報告がありました。本協議会も設立趣旨や研修の様子等を紹介したパネル展示、醍醐寺三宝院庭園の保存修理の様子をビデオで放映しました。



体験の様子

体験フェアでは、2年前の会津若松市から始まり、盛岡市・出雲市でも行った、手箒の手づくり体験を行いました。体験前には、庭師の仕事や手箒の使い道、材料となる竹について説明を聞いて頂きました。その後、徳村盛市代表・加藤末男副代表・山中功副代表・水本隆信前代表・新藤志延準会員補に親方として指導して頂き、体験者にはそれぞれ親方に弟子入りして手箒を作って頂きました。弟子入りした皆様は、年配の方から小さいお子様までたいへん熱心に手箒を造られて、立派な手箒が出来上がると嬉しそうに持って帰られていました。

例年通り本協議会のブースは大人気で、体験を希望される希望者が列になって順番を待ってくださっていました。たくさんの方に並んでいただいたので、長い待ち時間ではありましたが、



体験の様子

その間、皆さま熱心に手箒作りの様子を見られたり、色々と質問をしてくださったりと、ブースは常に賑やかな雰囲気でした。あまりにも希望者が多く、全ての方に体験をしていただくことができなかったほどです。皆さまに体験していただけなかったことは残念ではありましたが、当協議会のことをたくさんの方に知って頂き、今年も大成功に終わりました。

絶えず弟子入りが来る親方衆は、大変お疲れになったかと思います。誠にありがとうございました。

平成 27 年度新進芸術家育成事業の研修報告書が刊行しました

2016 年 6 月、文化庁の「次代の文化を創造する新進芸術家育成事業」の受託により福岡県添田町での長期研修を実施いたしました。その報告書を刊行いたしましたので、ここに報告させていただきます。研修では、様々な文化財庭園保存管理技術の研修を行いました。その成果となりますので、是非ご一読いただけますようお願いいたします。

資格昇格会員と新規加入会員の紹介

本年は、下記会員の方々の入会がありましたので、ご紹介いたします。

なお、これで本協議会の会員数は、退会された方等もおいでになりますが、2016 年 12 月末日現在で、技能会員 184 名、支援会員・賛助会員が 23 団体と 4 名となっております。併せて、ご報告いたします。

入会月	会員区分	氏 名	所 属
2 月	研修会員	魚住正人	(有)重兼造園
	準会員補	平浩一	(有)平 昭裁園
	準会員補	小田桐盛人	株式会社 大昭造園
	研修会員	田中秀幸	田中造園
6 月	研修会員	君島幸治	(有)蓮や鈴木造園
7 月	研修会員	前田裕幸	(株)中造園
	準会員補	岩井敏	株式会社おらが園

（編）昨年の研修等の開催に当たりましては、会員の皆様のひとかたならぬご協力・ご尽力を賜り、誠にありがとうございました。今後も様々な研修会を控えております。いつも案内が慌ただしく申し訳なく思っているところではありますが、それぞれ詳細につきましては、改めてご案内をさせていただきますので、何卒ご参加のほど宜しくお願い致します。

なお、平成 29 年 6 月中～下旬には青森県弘前市にて新進芸術家新進芸術家育成事業による実技技能研修と文化財庭園フォーラムの開催を、また、7 月下旬には京都近郊において総会及び実技技能研修の開催を計画しております。詳細は改めてのこととなりますが、よろしくご予定のほど願えますれば幸いに存じます。

最後に、会報の発行が遅れましたこと、お詫び申し上げます。